

あかつき

農林登録年月日：昭和54年6月
(もも農林6号)

育成者：金戸橋夫 吉田雅夫
栗原昭夫 佐藤敬夫

原田良平 京谷英寿
来歴：「白桃」と「白鳳」の
交雑実生

特 性

■栽培特性

樹勢は中程度かやや強く、樹姿は「白鳳」よりも直立しやすい。特に若木時代はこの傾向が強い。栽植距離は成木園で7m×7m(10アール20本)遅延開芯形仕立てを基本とする。

枝は下垂しにくい。結果枝は中・短果枝が多い。花芽の着生は良好で複芽が多い。煎定の時には「白鳳」よりもやや強い結果枝を利用するように残す。小果になりやすいため、煎定後から開花前までの期間に摘らいを行うことが大果生産の必須条件である。開花期は福島市で4月中旬、「白鳳」より1～2日早い。花は普通咲きで桃色、花粉が多いので授粉樹の混植や人工受粉の必要はない。生理落果は少ないが、双胚果が多い年には25%も発生して生理落果を誘発する要因となったこともあるので、予備摘果の時に双胚果は除去するように努める。着色は良好で、裂果・栗粒状のさびの発生もほとんど無いので、無袋栽培が可能である。しかし陽光面が暗赤色に着色するのを防ぎたい時は、有袋とする。熟期は福島市で8月上旬～中旬で「白鳳」より2～3日遅い。成熟日数は満開後104～113日の範囲にある。本品種より突然変異した大果系の中には果肉の品質が粗く、外観が異り、果肉内着色が多く、果面の毛じが多く、灰星病に弱い等不良形質の系統も発生しているので、これらの系統は積極的に淘汰すべきである。

■果実特性

果形は円～やや扁円で果頂部に小嘴(尖った部分)が目立つ。果実の大きさは200g～250g程度で、玉揃いも良好である。

果皮の地色は白で、着色は鮮紅色。

果肉は白で核周囲の紅は少～中、果皮の着色が濃いと果皮下の果肉も着色する。果肉は「白桃」に似て、ち密で多汁、甘味が多く12～14度、酸味適度でpH4.5、「白鳳」よりも味が濃厚で食味は良好である。核は粘核で核割れはほとんどない。軟熟果の発生は少なく果実の日持ちは良好で7～10日間持つので輸送性に富む。

■病虫害抵抗性

灰星病、ホモプシス腐敗病の発生は「白鳳」より少ない。幹や枝に発病するいぼ皮病も「白鳳」より少ないが、発芽前に石灰硫黄合剤を散布する。

せん孔細菌病や害虫の加害については他の品種と比較して差がない。

■地域適応性

ももの主産県のうち四国地方から東北地方まで経済栽培されており、地域適応性は広い。平成5年の栽培状況を見ると福島県は587haと品種別面積は県内第1位。山形県は65haで増えている。新潟県は40haで少し増えている。山梨県は20haで横ばい。長野県は経済連扱い出荷量69,248ケースから推定して20ha程度、着色よく南信の飯田市を中心に増えている。愛媛県は松山市に15haの団地がある。

土壌は排水の良い、砂壤土、壤土の沖積地、洪積台地が適している。火山灰土壌は果実の品質が低下する。

(佐久間忠雄)